

初任者研修講座の御案内

法人名	特定非営利活動法人（NPO 法人）あまみネット友愛
住所	鹿児島県奄美市名瀬古田町 5-14
代表者	対島正吾、研修事業担当者：対島正吾（理事長）
理念	介護を行う専門職を目指した人材養成に寄与する。幅広い利用者に対して介護を提供するうえで必要とする基本的な知識、技術を習得して、介護保険法が目指す理念の実践者にふさわしい介護員の育成を図る。
学則	別紙
研修会場	(1) 奄美市名瀬公民館金久分館 (2) 奄美市社会福祉センター 設備：浴槽(2)、ベッド(1)、車イス(2)、杖(5)、ポータブルトイレ(4)、寝具(2)
対象者	介護職を希望する 16 歳以上の者、又は家族等を介護するために必要な知識、技術の習得を希望する 16 歳以上の者。
研修スケジュール	別紙（当法人へ電話で申し込むことにより年 2 回 4 月～7 月、9 月～12 月の原則土・日受講する。期間・日程・時間数を記載した書類を送付する）
定員	通学課程 20 名、通信課程 20 名 通学過程は、原則土・日集合 研修 130 時間、通信課程は自宅学習、レポート提出 40.5 時間スクーリング 原則土・日 89.5 時間分
研修受講方法	募集（南海日日新聞による広告）
費用	通学過程：7 万円（テキスト代込） 通信課程：5 万円（テキスト代込）
留意事項	介護職員初任者研修カリキュラムに定める講義内容及び演習の全日程を修了することが修了条件ですから、スケジュールの調整が必要です。研修最終日に修了試験を行います。100 点満点中 70 点以上で合格修了となります。
課程編成責任者名	研修担当 対島正吾
研修カリキュラム	1. 職務の理解（6 時間） 2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間） 3. 介護の基本（6 時間） 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間） 5. 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間） 6. 老化の理解（6 時間） 7. 認知症の理解（6 時間） 8. 障害の理解（3 時間） 9. I（基本知識の学習）、II（生活支援技術の講義・演習）、III（生活支援技術の演習）75 時間 10. 振り返り（4 時間）
講師	対島正吾（社会福祉士） 担当科目 2 他に通信課程
（科目別担当教官）	高森周作（介護福祉士、介護支援専門員） 担当科目 1.3.4.5.6.7.8.9.10 他に通信課程 藤井芳仁（福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー） 担当科目 9 他に通信課程 福山紀子（介護福祉士、准看護師、介護支援専門員、認知症地域密着型外部評価調査員） 担当科目 1.3.4.5.6.7.8.9 他に通信課程 福田珠希（介護福祉士、介護福祉士実務者養成研修講座講師） 担当科目 1.3.4.5.6.7.8. 他に通信課程

研 修 実 績 平成23年11月～平成24年3月：23名修了
平成24年3月～6月：19名修了
平成24年10月～12月：25名修了
平成25年1月～3月：15名修了
平成25年6月～9月：9名修了
平成25年9月～平成26年1月：9名修了
平成26年1月～3月：8名修了
平成26年9月～平成12月：17名修了
平成27年1月～4月：6名修了
平成29年度1月～3月：6名修了

学 則

No.1

1、事業者の名称、所在地及び連絡先	特定非営利活動法人 あまみネット友愛 鹿児島県奄美市名瀬古田町 5-14 電話 0997-52-5525 (対島正吾)
2、研修事業の名称	介護職員初任者研修講座
3、研修課程及び形式	介護職員初任者研修 ((通学) ・ (通信))
4、開講の目的	<p>介護職員初任者研修講座の目的は、将来介護職員の任用資格は介護福祉士を基本とすべきであることを踏まえ、これから介護を行う専門職を目指した人材養成に寄与する。幅広い利用者に対して介護を提供するうえで必要となる基本的な知識・技術を習得するためのものである。ここで身につける知識・技術は、実践の中でその魅力に気づき、さらに介護福祉士という資格を目指していくうえで最も大切な土台をしっかりと固めることになる。</p> <p>厚生労働省が示した「介護職員養成研修の取扱細則（介護職員初任者研修関係）」に準じた介護保険法が目指す理念の実践者にふさわしい介護職員の育成を図る目的がある。また、知識や技術を深めるだけでなく、高齢者の思いに寄り添う「心」をはぐくむことも忘れずに学んでいただき、高齢社会が活力あるものとなるために、根拠に基づく「考えるケア」を実践できる人材となっただけのための土台づくりを担う講座でありたいと考えている。</p>
5、研修責任者の氏名 研修担当部署 研修担当者及び連絡先	<p>研修責任者氏名：対島正吾 研修担当者及び連絡先：特定非営利活動法人あまみネット友愛 研修担当 対島正吾 TEL 0997-52-5525 携帯 090-5023-5525</p>
6 受講対象者（受講資格）及び定員	<p>受講対象者：将来、介護職員として就労することをめざす者。または家族等の介護を担うにあたり基本的な介護の知識や技術を習得することを目的とする者。 受講定員：通学課程 20 名、通信課程 20 名</p>
7 募集方法（募集開始時期・受講決定方法を含む）受講手続き及び本人確認方法	<p>募集方法：新聞紙上広告並びに募集案内の発送。 受講手続き：書類選考のうえ、受講を許可します。受講申込書並びに添付書類（運転免許写しまたは健康保険証写しその他、身分証明書）（写真で確認可能なもの）</p>
8 受講料、テキスト代その他必要な経費	<p>① 通学課程 70,000 円（テキスト代を含む） （内訳）受講料 63,000 円＋テキスト代 7,000 円 ② 通信課程 50,000 円（テキスト代を含む） （内訳）受講料 43,000 円＋テキスト代 7,000 円</p>
9 研修カリキュラム	別添様式 3 のとおり（通信課程の場合、別添様式 4 のとおり）

<p>10 通信形式の場合、その実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・添削指導及び面接指導の実施方法 ・評価方法及び認定基準 ・自宅学習中の質疑への対応方法 	<p>(1) 鹿児島県奄美市及び龍郷町、瀬戸内町、宇検村、大和村、並びに喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島に居住する者で通学科目の全科目を受講可能な者。</p> <p>(2) 通信による受講を希望する者は、通学による受講生と合同で開催する通学科目の全科目に出席することを原則とする。</p> <p>(3) 通信で実施する受講科目は介護職員初任者研修カリキュラム全130時間のうち、「1.職務の理解」「2.振り返り」を除く各科目で各科目の各項目で通信学習、通学学習の時間設定（別紙様式4）「介護職員初任者研修カリキュラム（通信課程用）」の通り、合計40.5時間を通信形式で実施し、通学で89.5時間実施する。</p> <p>(4) 受講料納入の後、使用テキストを配布するので自宅学習し、各科目毎に設定した添削指導課題について設定された期限までに答案を提出し、添削指導を受けるものとする。なお「各科目の到達目標」に到達しない答案については再提出する。</p> <p>(5) 面接指導等の実施方法 通信学習を実施する科目、項目については通学学習時間中に質問に対して面接指導等を行う。</p> <p>(6) 添削及び評価 各科目、各項目ごとに認定基準（原則100点満点）を設定し理解度の高い順にA、B、C、Dの4区分で評価し、C以上が（概ね70点）認定基準を満たしたものとする。</p> <p>(7) 自宅学習中の質疑等は原則郵便による質疑応答により行う。</p>
<p>11 研修会場（名称及び所在地）</p>	<p>(1) 名 称：奄美市名瀬公民館金区分館 所在地：奄美市名瀬長浜町5-1</p> <p>(2) 名 称：奄美市社会福祉センター 所在地：奄奄美市名瀬長浜町5-6</p>
<p>12 使用テキスト（副教材も含む）</p>	<p>発行者：一般財団法人 長寿社会開発センター 介護職員初任者研修テキスト</p>
<p>13 研修終了の認定方法（習得度評価方法含む）</p>	<p>① 知識を確認するために全科目の終了時に1時間の修了評価筆記試験を実施し、100点満点に対し、70点以上をもって修了評価筆記試験合格と評価する。</p> <p>② 技術の習得を確認するために、研修施設で実技を行い技術習得を確認評価する。</p> <p>③ 「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」に係る技術演習については、技術の習得度合の評価を行う。担当講師が技術演習の評価基準に照らし、一定レベルに達している受講者について修了評価筆記試験を行う。</p> <p>④ 技術演習評価基準のA及びBの者を一定レベルに達している者とする。C及びDの評価の者は補講を行う。（担当講師による介護技術の習得度合をチェックすることで評価する） A：基本的な介護（介助）が的確にできる。 B：基本的な介護（介助）が概ねできる。 C：技術が不十分 D：全くできない。</p>

<p>14 欠席者の取り扱い（遅刻・早退の取り扱い含む） 補講の取り扱い（実施方法及び費用等）</p>	<p>欠席、遅刻、早退は認めない。やむを得ない事情で欠席、遅刻、早退した科目、項目の講義については、次回の講座（8ヶ月以内に実施）において補講を受講する。その際の費用の負担はない。ただし、欠席者のみを対象にした個別に行う補講並びに技術、演習、実技等の補講については講師日当1時間3,000円程度の実費を徴収する。</p> <p>1、受講者が欠席した場合、次の方法により補講等を行うものとする。</p> <p>(1) 講義・演習の場合 本法人が別に行う同一課程講座の研修において該当科目の補講を行う。</p> <p>(2) 通学課程の受講者で遅刻、早退、により授業を受けなかった科目、項目については「9、こころとからだの仕組みと生活支援技術以外」の科目でレポート課題の提出によって評価する。ただし、1回の遅刻、早退は1時間以内のものとする。それ以上は欠席とみなす。</p> <p>(3) 修了評価において習得度が十分でない受講者に対しては補講を行う。（講師日当1時間3,000円程度の実費を徴収する）</p> <p>(4) 補講を実施する場合は当該受講者と日程等確認の上、別途補講料徴収の後実施する。金額は講師日当1時間3,000円程度の実費を徴収する。</p>
<p>15 科目免除の取り扱いとその手続き方法</p>	<p>同一科目を他の機関で受講証明書の提出があれば、同科目を免除することができる。証明書の提出は受講申請書に添付して届けることとする。</p>
<p>16 解約条件及び返金の有無</p>	<p>1、一度提出された出願書類及び納入金は返還しません。</p> <p>2、出願願書受付後及び受講決定後であっても、願書に誤りや虚偽のあった場合は、受講を取り消す場合があります。その際、納入金等の返還はしません。</p> <p>3、通学課程、通信課程を選択して出願してください。</p> <p>4、主催者側の都合で欠講または日程変更の場合は事前に連絡しますのでご承知おきください。主催者側の都合で講座中止の場合は中止決定後2週間以内に納入金を全額返金いたします。</p>
<p>17 情報開示の方法（ホームページアドレス等）</p>	<p>http://www5.synapse.ne.jp/amaminetyuai/</p>
<p>18 受講者の個人情報の取り扱い</p>	<p>提出された願書等の個人情報については、個人情報保護に関する法律に基づき、適正な管理保護につとめます。また、ご提出いただいた個人情報は書類審査、受講許可及び就学全般に関わる業務に使用します。なお、上記以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて本人の同意を頂きます。</p>
<p>19 修了証明書を亡失・き損した場合の取り扱い</p>	<p>本人からの申し出により、本人確認が得られた場合に限り修了証明書を再発行する。再発行の際は、氏名等に変更がある場合において修了時の氏名により交付する。料金は無料。</p>

20 その他研修実施に係る留意事項	<ol style="list-style-type: none">1、出願に必要な書類<ol style="list-style-type: none">(1) 受講申込書(2) 本人確認ができる証明書（運転免許証写しまたは、健康保険証写しその他写真で確認可能な身分証明証）(3) 受講料納入確認書（領収書等）2、書類に不備がある場合は、受付を保留し出願者に連絡し、完備を待って受付完了とする。3、テキストの配布は通学課程は講座開始の初日に本人に交付する。通信課程は、受講受付確認後 1 週間以内に受講者へ送付するので、テキストが届き次第学習開始となります。テキスト送付の際は、通学授業日程表及び通信教育課題並びにレポート提出締切日等を送付します。ご確認ください。
-------------------	---

介護職員初任者研修（通信課程）カリキュラム

事業者名 特定非営利活動法人 あまみネット友愛
研修事業の名称 介護職員初任者研修講座

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間 (講義)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間 (講義)	<p>(1)介護サービスを提供する現場の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護 ・通所介護 ・短期入所生活介護 ・グループホーム ・小規模多機能型居宅介護 ・介護老人福祉施設 ・軽費老人ホーム（ケアハウス） <p>(2)介護サービスの提供に至るまでの流れ</p>
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）						
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削番号 課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	4時間 (講義)	0時間	4時間 (レポート)	1 2 3 4	<p>(1) 人間の尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における権利擁護と人権尊重 ・介護における尊厳保持の実践 <p>(2) ICF（国際生活機能分類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの考え方 ・ICFの視点とアセスメント <p>(3) QOL</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のQOL ・QOLを広げる視点 <p>(4) ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの2つの大きな流れ ・近年のノーマライゼーションの展開 <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止法 ・身体拘束の禁止 ・障害者虐待防止法 <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活自立支援事業 ・成年後見制度 ・苦情解決の制度 ・個人情報保護法に関する制度 ・障害者保護法 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権について ・QOLの視点について ・虐待行為について ・人間の尊厳について ・ノーマライゼーションについて ・自立支援の考え方について ・プライバシー保護について

②自立に向けた 介護	5時間 (講義)	0時間	5時間 (レポート)	5 6 7 8	(1) 自立支援 ・介護における自立 ・自立への意欲と動機づけ ・その人らしさの理解 ・個別性 / 個別ケア ・重度化防止 (2) 介護予防 ・介護予防と介護保険 ・生活における介護予防の視点	・自立した生活について ・介護予防について ・社会的介護について ・自立支援について ・生活の質について ・介護の目標展開について
合計	9時間	0時間	9時間			
3 介護の基本 (6時間)						
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 番号 課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①介護職の役割、専門性 と他職種との連携	2時間 (講義)	0時間	2時間 (レポート)	9 10 11 12	(1) 介護環境の特徴 ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ・利用者主体の支援姿勢 ・利用者の生活意欲と潜在能力の活用 ・チームケアの重要性 ・根拠のある介護 (3) 介護に関わる職種 ・多職種連携の理解 ・異なる専門性を持つ職種の理解 ・介護自然専門員 (ケアマネージャー) ・サービス提供責任者 ・社会福祉士 ・精神保健福祉士 ・医師 ・看護師 ・理学療法士 (PT) ・作業療法士 (OT) ・言語聴覚士 (ST) ・薬剤師 ・栄養士 ・管理栄養士	・介護職の役割 ・サービスの特性 ・医療・看護との連携 について ・介護職に求められる 観点 ・専門性と多職種との 連携
②介護職の職業 倫理	2時間 (講義)	0時間	2時間 (レポート)	13 14 15 16	(1) 専門職の倫理の意義 (2) 介護福祉士の倫理 ・介護職に求められる法的規定 ・介護職に求められる行動規範	・介護職に求められる 社会的責任 ・介護職に求められる 利用者・家族への責任 ・介護に求められる職 業倫理について ・介護職に求められる 行動規範について
③介護における 安全の確保と リスクマネジ メント	1時間 (講義)	1時間 (講義)	0時間		(1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 ・リスクマネジメントの必要性 ・事故防止・安全対策の実際 (3) 感染対策 ・生活の場でも感染対策、感染対策の原則	
④介護職の安全	1時間 (講義)	0時間	1時間 (レポート)	21 22 23 24	(1) 介護職の心身の健康管理 ・健康管理の意義と目的 ・こころの健康 (2) 感染予防 ・感染管理 ・衛生管理	・腰痛の予防について ・介護職の健康と介護 の質について ・介護職の安全 ・介護職におこりやす い健康障害やストレス について
合計	6時間	1時間	5時間			

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)						
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 番号 課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①介護保険制度	3 時間 (講義)	0 時間	3 時間 (レポート)	26 27 28	(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界 ・1990 年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革 ・介護保険制度の基本理念 (2) 介護保険制度の仕組みの基礎的理解 ・介護保険制度の概要、保険者、被保険者、保険給付者の対象者 ・保険給付までの流れ ・保険給付の種類と内容 ・地域支援事業 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・国、都道府県、市町村の役割、その他の組織の役割 ・介護保険の財政	・保険給付までの流れについて ・介護保険制度の理念について ・ケアマネジメントについて ・介護保険制度について ・介護サービス事業者の指定について ・介護保険制度の位置づけについて
②医療の連携とリハビリテーション	3 時間 (講義)	0 時間	3 時間 (レポート)	29 30 31 32	(1) 医行為と介護 ・医行為とは ・在宅支援における介護職と行こう位の実情と経過 ・施設における介護職と医行為の実情と経過 (2) 訪問看護 ・どんなサービスなのか ・介護職と看護職の専門性と連携のポイント (3) 施設での看護と介護の役割・連携 ・施設での看護と介護の連携の必要性 ・看護職と介護職の専門性と連携サポート (4) リハビリテーションの理念 ・リハビリテーションとは ・わが国のリハビリテーションの歴史と理念	・高齢者の英ハビリテーションの対象者について ・原則として医行為でない医行為について ・連携について ・脳卒中モデルでみるリハビリテーションについて
③障害者総合支援制度およびその他制度	3 時間 (講義)	0 時間	3 時間 (レポート)	33 34 35 36	(1) 障害者福祉制度の理念 ・障害と障害者の概念 ・障害福祉理念としての「自立」 (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・障害者総合支援法の制定と障害者総合支援法 ・障害福祉サービスの種類内容 ・障害福祉サービス利用の流れ ・自立支援給付と利用者負担	・障害者総合支援法について ・自立支援給付について ・障害者福祉サービス利用の流れについて ・個人情報保護について
合計	9 時間	0 時間	9 時間			

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）						
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削番号課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間 (講義)	0時間	3時間 (レポート)	37 38 39 40	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・対人援助関係とコミュニケーション ・人間的・効果的なコミュニケーションの基本 (2) コミュニケーションの技法 ・言語的チャンネルと非言語的チャンネル (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・家族の心理を理解する ・信頼関係を形成する ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難しない (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術	・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について ・コミュニケーションにおける配慮すべき事項について ・利用者の状態に応じたコミュニケーションについて ・共感・受容 p ・傾聴的態度・気づきなど基本的コミュニケーションについて
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間 (講義)	1.5時間 (講義)	1.5時間 (レポート)	41 42 43 44	(1) 記録における情報の共有化 ・記録の意義と目的・記録の種類・記録の書き方と留意点 (2) 報告、連絡、相談 ・報告、連絡、相談の意義と目的 ・報告、連絡、相談の具体的方法と留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ・会議の意義と目的・会議の種類と運用	・会議の種類について ・観察と記録について ・報告・連絡・相談について ・相談援助技術について ・記録の機能と重要性について ・言語的・非言語的コミュニケーションについて
合計	6時間	1.5時間	4.5時間			
6 老化の理解（6時間）						
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削番号課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①老年期の発達と廊下に伴うところからただの変化と日常	3時間 (講義)	0時間	3時間 (レポート)	45 46 47 48	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化による心理や行動を理解するための視点 ・社会的環境の変化と心理 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化 ・感覚機能の変化 ・咀嚼機能の消化機能の変化 ・循環器の機能変化・呼吸器の機能の変化 ・筋・骨・関節の機能の変化 ・泌尿器の機能の変化 ・体温維持機能の変化 ・記憶機能の変化	・老化に伴う身体機能の変化について ・骨の変化について ・皮膚の変化について ・身体機能の変化について ・感覚機能の変化について ・咀嚼機能・消化機能の変化について

②高齢者と健康	3 時間 (講義)	0 時間 (講義)	3 時間 (レポート)	49 50 51 52	<p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 瘍み (腹痛) ・ 痛み (骨、筋肉、関節) ・ 浮腫 (むくみ) ・ 便秘 ・ 下痢 ・ 誤嚥 <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣病 ・ 運動系の病気 ・ 知覚系の病気 ・ 呼吸器の病気 ・ 腎・泌尿器の病気 ・ 消化器系の病気 ・ 循環器系の病気 ・ 脳・神経系・精神の病気 ・ 介護保険の特定疾病 ・ 感染症の病気 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節や骨の疼痛の原因について ・ パーキンソン病について ・ めまいについて ・ 筋肉・運動系の変化について ・ 感染症について ・ 狭心症の原因について ・ 老年期のうつ症状について
合計	6 時間	0 時間	6 時間			

7 認知症の理解（6時間）						
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 番号 課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①認知症を取り 巻く状況	1時間 (講義)	0時間	1時間 (レポート)	53 54 55 56	(1) 認知症ケアの理念 ・その人を中心としたケア ・その人らしくあり続けるための支援の実現 (2) 認知症のケアの視点 ・問題視するのではなく、人として接する。 ・できないことではなく、できることをみて 支援する	・認知症の介護について ・認知症ケアについて ・アルツハイマー型認 知症の進行に合わせ た介護について ・認知症の診断基準に ついて
②医学的側面か ら見た認知症 の基礎と健康 管理	2時間 (講義)	2時間 (講義)	0時間		(1) 認知症の概念 ・脳の機能と認知症 ・認知症とは ・認知症ともの忘れとの違い ・認知症に類似した状態 (2) 知症の原因疾患とその病態 ・アルツハイマー型認知症 ・血管性認知症 ・レビー小体型認知症 ・前頭側頭型認知症（ピック病など） ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・慢性硬膜下血種 (3) 因疾患別ケアのポイント (4) 健康管理 ・認知症の治療・認知症の予防	
③認知症に伴う ところから だの変化と日 常生活	2時間 (講義)	0時間	2時間 (レポート)	61 62 63 64	(1) 家族へのレスパイトケア ・レスパイトケアとは ・レスパイトの方法 (2) 族へのエンパワメント ・エンパワメントとは ・家族の力の活かし方	・認知症の人とかかわ るポイントについて ・行動・心理症状につ いて ・日常生活支援につい て ・異食について
④家族への支援	1時間 (講義)	0時間	1時間 (レポート)	65 66 67 68	・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）	・介護負担を軽減する 方法 認知症の人の家族に ついて ・家族がもっている力 の支援について
合計	6時間	2時間	4時間			

8 障害の理解 (3 時間)						
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 番号 課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
①障害の基礎的 理解	0.5 時間 (講義)	0 時間	0.5 時間 (レポート)	69 70 71 72	(1) 障害の概念 ICF ・「障害」をどうみるのか ・国際障害分類と国際生活機能分類 (1) 障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーション ・リハビリテーション・インクルージョン	・ICF と ICIDH について ・ノーマライゼーションの理念について
②障害の医学的 側面、生活障 害、心理・行 動の特徴、か かわり支援等 の基礎的な知 識	2 時間 (講義)	0 時間	2 時間 (レポート)	73 74 75 76	(1) 身体障害 ・視覚障害・聴覚、言語障害・肢体不自由 (運 動機能障害) ・内部障害 (2) 知的障害 ・知的障害の心理学的概念 ・知的障害の原因 ・介護上の留意点 (3) 精神障害 ・精神障害 ・精神障害者の定義 ・精神障害 (疾患) の理解 ・精神障害のある人の生活の特徴と介護の留 意点	・平衡機能障害について ・肢体不自由について ・知的障害について ・統合失調症について ・発達障害について ・障害の医学的側面、 生活障害、心理・行動 の特徴、かかわり支援 について
③家族の心理、 かかわり支援 の理解	0.5 時間 (講義)	0 時間	0.5 時間 (レポート)	77 78 79 80	(1) 家族の理解と障害の受容支援 ・家族支援の視点 ・障害の受容と家族 (2) 介護負担の軽減 ・家族を取り巻く社会環境 ・家族支援となるレスパイトサービス	・介護負担の軽減につ いて ・家族への支援につい て ・家族の心理・かかわ り支援について
合計	3 時間	0 時間	3 時間			

※通学課程：全科目 130 時間

※通信課程：

スクーリング 89.5 時間、自宅学習 40.5 時間

内訳：1. 職務の理解 (6 時間) 他、3. 介護の基本 (1 時間)、

5. 介護におけるコミュニケーション技術 (1.5 時間)、7. 認知症の理解 (2 時間)、

9. こころとからだのしくみ支援生活 (技術の講義・演習など) 75 時間、

10. 振り返り 4 時間、計 89.5 時間……合計 130 時間

※通学・通信課程共通

講義・演習修了後、修了評価試験実施。100 点満点中 70 点以上で合格。初任者研修修了となる。

9 こころとからだのしくみ支援生活（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削番号課題	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要	通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	4 時間 (講義)	4 時間 (講義)	0 時間		<ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（I CF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護 	
	②介護に関するこころのしくみと基礎的理解	3 時間 (講義)	3 時間 (講義)	0 時間		<ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 	
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間 (講義)	3 時間 (講義)	0 時間		<ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 	
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6 時間 (講義)	6 時間 (講義)	0 時間		<ol style="list-style-type: none"> (1) 生活と家事の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・自立生活を支える家事・家事援助のポイント (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・調理 ・洗濯 ・掃除 ・ごみ捨て ・衣服の補修 ・裁縫 ・衣服 ・寝具の衛生管理 ・買い物 ・家計管理 	
	⑤快適な住環境整備と介護	6 時間 (講義) 演習	6 時間 (講義) 演習	0 時間		<ol style="list-style-type: none"> (1) 快適な居住環境に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境とは ・安心して快適な生活の場づくり (2) 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・生活空間と介護 ・住宅改修 ・福祉用具の活用 	
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間 (講義) 演習	6 時間 (講義) 演習	0 時間		<ol style="list-style-type: none"> (1) 整容に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ身じたくを整えるのか ・自立生活を支える身じたくの介護 (2) 整容の支援技術 <ul style="list-style-type: none"> ・洗面 ・整髪 ・ひげの手入れ ・爪の手入れ ・化粧 ・衣服の着脱 	

生活支援技術の講義・演習	⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	12時間 (講義) 演習	12時間 (講義) 演習	0時間	<p>(1) 移動・移乗に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ移動するのか ・残存能力の活用と自立支援 ・ボディメカニクスの活用 ・重心と姿勢の安定 <p>(2) 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すり、歩行器、杖・車いす ・移動用リフト ・簡易スロープ ・段差解消機 <p>(3) 利用者・介護者にとって負担の少ない移動・移乗の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換 ・安楽な体位の保持と褥瘡の予防 ・歩行の介助 ・ベッド・車いす間の移乗の介助 ・車いすの介助 <p>(4) 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の低下が移動に及ぼす影響 ・身体機能の低下が移動に及ぼす影響 <p>(5) 移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出の支援 ・円滑な外出のための留意点 ・外出先における留意点 ・社会参加の支援 	
	⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6時間 (講義) 演習	6時間 (講義) 演習	0時間	<p>(1) 食事に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ食事をするのか ・食事に関連したところのしくみ ・食事に関連したからだのしくみ <p>(2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしく食べる」を支援するために ・食事の介助 ・食事関連用具 ・誤嚥・窒息の防止 ・脱水の予防 ・口腔ケア <p>(3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の低下が食事に及ぼす影響 ・身体機能の低下が食事に及ぼす影響 <p>(4) 食事と社会参加の留意点と支援</p>	

生活支援技術の講義・演習	⑨入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6時間 (講義) 演習	6時間 (講義) 演習	0時間	<p>(1) 入浴・清潔保持に関連する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ入浴・清潔保持を行うのか ・入浴・清潔保持に関連したところのしくみ ・入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ <p>(2) 入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちのよい入浴」を支援するために ・入浴の介助・浴室の空間構成・入浴設備と関連用具 ・手浴・足浴の介助 ・洗髪の介助 ・清拭 <p>(3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の低下が入浴 ・清潔保持に及ぼす影響 ・身体機能の低下が入浴 ・清潔保持に及ぼす影響 	
	⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6時間 (講義) 演習	6時間 (講義) 演習	0時間	<p>(1) 排泄に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ排泄をするのか ・排泄に関連したところのしくみ ・排泄に関連したからだのしくみ <p>(2) 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちのよい排泄」を支援するために ・排泄介助 ・トイレの環境 ・排泄関連用具 ・便秘、下痢への対応 <p>(3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能、判断力の低下が排泄に及ぼす影響 ・身体機能の低下が排泄に及ぼす影響 	
	⑪睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	3時間 (講義) 演習	3時間 (講義) 演習	0時間	<p>(1) 睡眠に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ睡眠が必要なのか ・睡眠を引き起こすしくみ ・眠りの種類 <p>(2) 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安眠」を支援するために ・寝室の空間構成 ・睡眠と薬 <p>(3) 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠不足が及ぼす影響 ・加齢による心身の変化が睡眠に及ぼす影響 ・病気や障害が睡眠に及ぼす影響 	

生活支援技術の講義・演習	⑫ 死にゆく人に関連したところからだのしくみと終末期介護	4時間 (講義) 演習	4時間 (講義) 演習			(1) 終末期ケアに関する基礎知識 ・終末期の理解 ・終末期の変化の特徴 (2) 生から死への過程 ・死のとらえ方 ・尊厳死 (3) 「死」に向き合うところの理解 ・「死」に対するところの変化 ・「死」を受容する段階 ・家族の「死」を受容する段階 (4) 苦痛の少ない死への支援	
生活支援技術演習	⑬ 介護過程の基礎的理解	3時間 (講義)	3時間 (講義)			(1) 介護過程の目的・意義・展開 ・根拠に基づいた介護の実践・介護過程の展開イメージ (2) 介護過程とチームアプローチ ・チームアプローチにおける介護職の役割	
	⑭ 総合生活支援技術演習	7時間 (講義)	7時間 (講義)			(1) 演習を行うにあたって ・生活全般にわたる側面的な支援・生活を支援する流れ (2) 「食べたくない」と訴える施設入所者の支援（事例） (3) できるだけ外に出かけたいと思っている利用者の支援（事例） (4) トイレでの糞泄にこだわりをもつ利用者の支援（事例）	
実習計		0時間					
合計		126時間	75	0			

10. 振り返り		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間 (講義)	(1) 介護職に求められるもの ・研修を修了して感じたこと、考えたこと ・介護職が大切にすべき視点 (2) 学習到達度のチェック
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間 (講義)	・介護人材の将来の見直し、国の取り組み、キャンパスの全体像 ・キャリア段位制度の仕組み、専門職としての心構え
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること